

再び ことばを考えてみる

### <その1> わからない言葉

ある夫婦が新聞を見ながらしている会話

- 「～ん、TPP かあ・・・」  
「あら、何それ。チャックの会社？」  
「それは YKK だろが・・・」  
「え、それ英会話の学校じゃないの？」  
「何言ってるんだ、それは ECC だろ」  
「え～っ、ECC って缶コーヒーの会社じゃないの？」  
「バカ、それは UCC だ！！」

落語「妻の旅行」の中のひとこまだが、まさに世相を表している。

氾濫する「横文字の略語」や「カタカナの言葉」に人々は翻弄され、やがて意味もわからずにやり過ごすようになり、そして忘れられていく。

ひところは特定の業界がその業界の言葉として発する言葉に限られていたので、知りたいと思っている人が知っていれば充分だった。しかし近頃では、誰もが知っていなければならない言葉までがカタカナ化されたり横文字化されたりして判りにくくなっていることが多い。しかも行政が発する言葉にも数多く存在し、「行政が発信する情報は一般国民に分かりにくくした方が良い」という基本方針があるのでは・・・？

DNA という言葉が数多くの場面で聴かれるようになった。Deoxyribonucleic acid の略で、日本語に訳してもデオキシリボ核酸という凡人には何やら意味も存在も良くわからないもの。こう言う言葉は意味がわからないまま言葉だけが歩きまわってもあまり問題はおきない。

最近の新聞に「LGBT」という言葉が頻繁に登場する。どこの国の誰が作った言葉かはともかくとして、意味が良くわからないこともあり、一般国民には馴染みにくい言葉である。横文字略語の元になっている単語は、「Lesbian・Gay・Bisexual・Transgender」。「Lesbian と Gay」は、意味の正しさはともかくとして、我が国では既に一般国民にある一定のイメージを持って浸透してしまっている。そこへ新たな「別な意味的要素を持つ新しい言葉」が加わり、知らない人にはよくわからない言葉になっている。どうやら人権擁護等の問題も含まれる言葉として使われているようだが、我が国で既に広がってしまっている「レズ」「ゲイ」という言葉の持つ意味合いとの協調度がよくわからない。

大型商業施設のトイレに「このトイレはオストメイト対応のトイレです」と紙が貼ってあった。オストメイトを知っている人には問題ないだろうが、知らない人にとっては何も意味がわからない。私の見解としては、「このトイレは人工肛門装置にも対応しております」と書いた方が多くの人々の理解が得られると思う。

意味の良くわからない言葉の中には、外国ですでに一般化している言葉をそのまま補足説明なく導入しているものもあり、かたや我が国で勝手に作った横文字もあるようだ。よくよく調べて見る、国際化時代に逆行するような言葉さえあるのが実態のようだ。

### <その2> 耳障りな言葉

「とかとか言葉」と「かなかな言葉」が蔓延して腹立たしく思った時期があったが、近頃よく耳にする言葉の中で好きになれない言葉を書いて見る。

「いやし」とか「いやされる」という表現がテレビやラジオにやたらに登場する。

「癒す」という言葉は「病や傷を治すこと」や「肉体的精神的苦痛を解消させる」等の意味を持つ。

「癒える」という言葉から変形したものと考えられる。この言葉は、「癒される」という受動的な表現には使

わないのが通常ではないかと思う。「癒す」ということは文字が示すように、外部の影響力を受けた心が力を発揮して、体の内部から湧き出る内的な力によって「心や体の病（やまい）」から回復することを示すものだと思う。

谷川のせせらぎを聴きながらの散策や、静かな部屋に流れる優しい音楽を聴きながらテレビタレントが「癒される～」などとほざくのは、不快感なしで聞いてはいられない。

就職活動を「就活」と言っているうちはよかったが、結婚相手を探す活動を「婚活」と言い、人生の終末期の生き方（死に方）を考える活動を「終活」と言うらしい。何でも短縮して新造語を作っていくのも良いが、言葉の本来の意味を考えたり、他の言葉との混乱回避も考えてくれないと困る。

女性の社会進出を促進する考え方が世に広がるのは悪いことではないが、何でも「XX女子（XX ジョ）」という短縮略語にしてしまうのもいただけない。土木工事への女性の進出は「ドボジョ」となり、理科系に進出すると「リケジョ」となるようだ。この流れで行くと、勉強する女性は・・・・。

どの言葉を見ても浮薄さを感じるし、これらの言葉を用いることで、特定分野に進出する女性を特別な呼び名で読んでグルーピングすること自体が「女性蔑視」ではないかと思うのだが。

### < 3 > 破壊から再生創造へ・・・・

言語の乱れは日に日に進み、日本語の崩壊に向かう流れが始まっているように見られる。

崩壊したものが再生し新たな想像のステップに入るのならば良いが、とても楽観的には考えられない。母国語の喪失は「国家の喪失」への道だと警鐘を發した方がいたが・・・・。

以上